



平成31年1月8日(火)



つつじが丘小学校  
学校だより

# つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市



## 30年の過去と未来

校長 上田 祥市

平成最後の年が始まりました。  
明けましておめでとうございます。  
本年もどうぞよろしくお願ひします。

さて、先日テレビで平成を振り返る番組を見ました。映像とともにこの30年を確かめていくと、その移り変わりの速さに改めて驚きます。バブル時代から始まり、その終焉に伴う景気の悪化。世界では東西冷戦が終わり、グローバリズムという言葉でヒト・モノ・カネが流通する時代となり、インターネットの普及により、その変化は加速度的に進んでいきました。学校現場に目を移すと、学校5日制の導入で土日が休みとなったり、「ゆとり世代」という言葉を生み出した学習指導要領の改訂では、総合的な学習の時間という新たな学び方が始まったり、全国学力調査が始まったりと、次時代の教育への模索が行われてきました。

子供たちを取り巻く環境も大きく変わりました。子供は遊びの中で、「創造性」「社会性」「感性」「身体性」など、多くのことを学び、身に付けます。しかし、この30年で遊べない子供たちが増えてきています。それは、遊びに必要な3つの要素「空間」「時間」「仲間」の3つの間が無くなってきているからだと言われています。本校の実態を見ても同じような傾向があります。休み時間になると靴のかかとを踏みながら校庭へ駆け出していく子供は、少なくなりました。高学年になるにつれてその数は減っていきます。委員会の仕事や係活動、学習の準備等が主な理由です。先生たちも子供たちも忙しい日常があります。

新たな元号が始まる今年から30年後の世界の中はどう変わっているでしょう。常に学校は子供たちの未来を見据え、今やるべきことは何かを問い続けます。

子供たちの「遊び」は小学校時代に特に必要な要素です。だからこそ遊ぶ時間と場所を確保していくこと、その中で仲間との関係を築けるようにしていくことが、学校だけでなく家庭でも、今私たち大人が考えなければいけないことです。与えるのは、時間と場所。「何をして遊ぶか」「だれと遊ぶか」は子供たちの自由。自由だからこそ「遊び」の意義が生まれます。

また、教員の働き方改革の方向性が示される中、学校業務の見直し・改善は必須です。しかし、そこには優先順位があります。「学校として子供たちのために何を大切にしていくのか」という自問自答を繰り返しながら、先生も子供たちも心に余裕をもてるよう業務を精選し、『自立と共生』に向かう教育を保護者・地域と共に力強く進めていきたいと思ひます。

転機となる今年、30年後の未来を想像し、子供たちの今を、ともに考えていきましょう。

